

(第2号様式)

宮総実第1773号
令和6年 3月19日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立宮古総合実業高等学校
校長 千葉 直史
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	2023/7/20 16:00~17:00	場所	本校会議室	出席 状況	評議員3名 職員7名
第2回	日時	2023/12/20 16:00~17:00	場所	本校会議室	出席 状況	評議員2名 職員7名
第3回	日時	2024/3/18 15:00~17:00	場所	本校校長室	出席 状況	評議員3名 職員6名

2 学校評議員に求めた事項

宮古総合実業高校らしい、生徒の資質・能力を向上させるための効果的な地域や外部機関との連携のあり方について専門的立場からの意見を求める。

- ①地域に根ざす高校として目指す方向性や地域との連携・協働の在り方、学校の魅力化などについて
- ②学校経営について(学校要覧等をもとにした意見聴取や授業参観などを通じたアドバイス等)
- ③学校評価について(自己評価、保護者アンケート、生徒アンケート等も参考にした意見聴取やアドバイス等)

3 学校評議員の意見

【第1回】

(質問1) 女生徒の制服のリボンの着用に関して

「見た目や生徒らしさの観点から」夏服でもリボンを着用したほうが良いのではないかと。夏の暑さなどの観点から、少々、厳しい意見であることは承知しているが、本島などでも夏服でリボンやネクタイを着用させている学校もあるので。

(回答1) クールビズ等の観点から、現在は、校外活動等や式典の場合に限ってリボンを着用するよう指導している。本島の学校でも、制服としてポロシャツの着用を許可したりするなど、制服に関しても多様化の傾向にある。本校では、実習などもあるので、実習後の制服の着用などを考えるとリボンやネクタイの着用を強制するのは難しい状況にあると考える。

しかし、制服だけでなく、校則などに関しても、時代の流れに合わせて、多様な考えや意見を踏まえながら柔軟に対応することが重要であることなどを踏まえ、ご意見を踏まえ、今後、検討していきたいと思う。

(質問2) 校則との関連もあるが、時代の流れも含めて、通学に関して車両の運転も検討することはできるのか？車両通学などを学校側が制限することは難しくなってきてはいないか。また、通学を認めた際に、事故などとの関連から、学校の保障や責任の範囲はどうか？

(回答2) 車両の通学禁止に関しては、かつて、生徒の事故の多発などをを受けて、PTAの側から3ない運動が進められた経緯もあり、その流れを受け、現在でも多くの学校で禁止となっている。たしかに、時代の流れなどもあるので、先ほどの校則の見直し等との関連なども含めて、生徒や保護者などとの協議の中で、多様な意見や考え方も引き取りながら、柔軟に対応しなければならないという側面もあると考える。継続審議の課題として引き取りたい。

(質問3) 定員割れへの対応として、新聞報道などでも出前授業や体験講座などの内容に関して、よく目にする。今後も学科の特色をもっと出してほしい。

(回答3) 様々な特色ある取り組みを実施し、HPなどでも積極的に校外にPRしているが、まだまだ認知が十分に広まっているとは言えない状況があり、学校の魅力化の観点からも課題と考えている。今後も、その他の広報の方法なども取り入れながら、本校の特色ある教育活動と学校の魅力に関して、多くの方々に知ってもらうような努力をしていきたい。

(質問4) 在校生と卒業生をつなげる機会をもっと増やしたい。また、学校説明会等に卒業生も参加させることで、総合実業高校を卒業した後に、りっぱな職業人として活躍している姿を見せられるだけでなく、そのような職業人を育成できる学校としてのPRにもなるのではないかと考える。そうしたことも積極的に検討してみたい。

(回答4) 中学生は、なかなか高校での学びや生活をイメージできないので、その辺の理解を深めてもらうよう、学校説明会や学校体験では工夫を重ねている。たしかに、入り口だけでなく、出口までも見せながら、学校としての魅力を説明することが、よりリアルな形でイメージが深まるし、魅力が出ると考える。積極的に、そのような方法についても検討していきたい。その際は、ぜひアドバイスや協力・支援をお願いしたい。

【第2回】

(質問1)資料の主な行事(p3)に関して、「食料農業基本法」の改正にあたって、農林水産省主催の「食料・農業・農村政策審議会基本法検証部会 地方意見交換会」が8月3日にJTAドーム宮古島で開催され、そこにIT活用事例報告において、宮古総合実業高等学校の生徒が高校生で唯一参加していたので、明記してほしい。

(回答1) 認識できていなかったもので、ぜひ、追記した上で、生徒にも周知したい。

(質問2)進路講演会の企画に関して、どのような経緯で実施に至ったのか？

(回答2)宮古島出身で、島内でイベントなどの取り組みに関わっている職員の伝手などをもとにして計画・実施に至っている。

(質問4)進路に関して、高卒で就農する生徒はいるか？、今度、本校の卒業生で、農業大学校を卒業した生徒が就農するとは聞いているが。

(回答4)農業大学校に進学する生徒はいるが、すぐに就農する生徒はいない。資格取得は、就農にあたって非常に重要なので、大学校進学などを含めて進路指導を充実させていきたい。

(質問5)生徒が作成した屋外用テーブルを校内へ設置しているが、同じテーブルを市内の市場へ寄贈しているようだが、非常に良い取り組みなので、寄贈していることを示す表示があっても良いのではないか。

(回答5)関係職員に伝えて表示するように検討したい。

(質問6)スマート農業講話に関して、良い取り組みなので、機会があればまた実施してほしい。講師の辺士名氏は、県知事認定の「指導農業士」である。

(回答6)ご指摘頂いた件に関して、今後も職業としての農業の多様性と変化、女性の活躍等についても生徒たちに、積極的に知見を広げていってもらうためにも計画したい。

(質問7)学校における外部講師の活用に関して聞きたい。2023年度成立の「認知症基本法」等とも関連して、包括支援センター、医療機関従事者等参加のもと、行政主導で今後、会議が実施されるが、そうした場所に、高校生も参加させてはどうかと考えている。

(回答7)外部から講師を招くだけでなく、生徒達が積極的に校外で学ぶ機会を設けることは非常に重要なので、関係職員とも連携して、積極的に取り組んでいきたい。

(質問8)授業参観は、2学期実施が良いと思う。昨年度、2学期に授業参観したときに、時期的にも生徒の活き活きした活動の様子を見ることができた。

(回答8)今回、タイミングが合わず実施できなかったが、貴重なご意見なので、次年度に活かしていきたい。

(質問9)学科の枠を超えて、幅広く選択科目が取れるのは、進路選択の多様性にも関わって非常に良いことだと思う。より早い時期からの進路選択の幅を持たせる上でも、選択授業がとれる時期を1年生からにしても良いのではないかな？

(回答9)進路選択の多様性の観点から重要な意見であるので、検討していきたい。自分の専門性を高めながら、その他の学びの選択を持つことは、将来の多様な進路選択においても大切なことだと思うので、その辺もふまえながら、今後のあり方を検討していきたい。

【第3回】

(質問1)辺士名さんを外部講師に招いてのスマート農業に関する授業に関して。辺士名さんは、県知事認定の「指導農業士」であり、農業の担い手の育成やスマート農業に関して先駆的活動をしている。ドローンの活用だけでなく、トラクターの自動操舵を実施したり、女性を意識的・積極的に登用し、スマート農業の普及・発展に努めている。今後もこれらに関連する講話などの取り組みを希望するならば、窓口となっているので相談してほしい。

(回答1)これからの農業の担い手と働き方の変化との兼ね合いからも積極的に進めていきたいので、ご相談させてください。

(質問2)部活動で活躍している生徒がいる一方で、生徒評価で部活動に関する評価が低いのはどのような理由があるのか？

(回答2)全体的に部活動に参加している生徒が少ないからではないかと考えている。価値観などの変化で、生徒だけでなく、保護者のアルバイトなどに対する考え方が以前と違ってきていることも要因としてある。そうした点も踏まえて、生徒指導上におけるアルバイトの指導の方法も変化してきている。

(質問3)懲戒に関して、1年生の指導が多いのは、特殊性があるのか？

(回答3)学び直しや多様な学びのあり方との関連から、指導だけでなく支援が必要な生徒が多い。そうした生徒たちの自尊感情を高めていく取り組みとしての支援のあり方との関連から、どのような方法が必要か検討が必要だと感じている。

(質問4)しょうがない部分もあるが、学校評議員(外部評価)の評価項目に関して、学校の内部が見えておらず評価しにくさを感じた。

(回答4)評価にあたっての事前の情報提供のあり方などを工夫していきたい。また、次年度は、速めに授業参観を行うなど、学校の内部での活動を見た上で、外部評価に臨めるよう工夫していきたい。

(質問5)保護者と先生方が触れ合う環境をもっと多く作っていきたい。保護者がPTA活動になかなか参加してくれない部分もある。先生と保護者とのコミュニケーションをとる場面を増やすべきである。

(回答5)学校評価のところでも触れたが、地域・関係機関との連携という部分での弱さとの関連もあると感じる。職員側の積極性も不足している部分もあるので、そこを課題として引き取りたい。また、次年度からはTeamsを活用して、学校側の情報提供を積極的に行う事で、保護者と学校のつながりを深めていけたらと考えている。

4 学校運営に反映した事項

- ・中学校での学校説明会や体験入学をさらに積極的に行い、内容を工夫しながら、今年度以上に入学生の確保に繋げる取り組みを工夫し、さらに拡大していく。
- ・学校の教育活動への取組についてより周知を図るため、今年度は、積極的に学校HPをより見やすい形式に変更し、情報提供を多くした。次年度以降は、Teamsを活用し、さらに迅速で、具体的な情報が保護者等に伝わるような工夫にとりこんでいく。

5 課題その他

- ・評議員評価の評価方法の改善を図る。生徒の変容や評価の観点について外部評価しやすい形式の検討が必要である。
- ・生徒指導の取組の強化だけでなく、支援的な視点からの教育相談的な観点も盛り込みながら、新しい生徒指導提要の内容を踏まえ、生徒の自尊心を高めながら、多様な学びのあり方との関連から取り組みを進めていく必要がある。